

神奈川新聞

THE KANAGAWA

2015年〔平成27年〕

5月21日〔木〕

先勝 | 小満

市議初登庁 決意新た



議員バッジを着けてもらう新人議員＝川崎市議会

4月の川崎市議選で当選した市議60人が20日、市議会に初登庁した。現職46人、元職2人、新人12人は真新しい議員バッジを胸に、市民の負託に応えようと気持ちを新たにしました。

自民党新人の矢沢孝雄氏(29)＝宮前区＝は一番乗りで受け付けし、市職員に議員バッジを着けてもらった。「3日の任期開始から活動はしていたが、初登庁してあらためて責任の重みを感じている」と表情を引き締めた。元議長の子・博孝氏の地盤を継ぎ初当選。「2世議員をマイナスに捉

えるのではなく、父が大事に見習いたい。新しい感覚も持つて地域を守っていく活動をしたい」と述べた。

無所属で初当選し、民主みらい市議団に所属した林敏夫氏(51)＝川崎区＝は「緊張している。市民、区民のために仕事をしていきたい」。地元であった中1男子殺害事件や簡易宿泊所火災に触れ、「安心安全で住みやすい街になるよう、勉強して取り組みたい」と意気込みを語った。

一方、現職最多の当選8回、麻生区でトップ当選し

た雨笠裕治氏(56)は、市議選で訴えた横浜市営地下鉄の新百合ヶ丘延伸について、「ライフワークとして、4年間しっかり取り組んでいきたい」と具体的な施策

推進を誓った。新人市議らには「物事を善悪だけでなく大局的に見てほしい。焦らずに」とアドバイスを口にした。

(鈴木 昌紹)